



丹波篠山市

株式会社アグリヘルシーファーム



事業内容

水稲、黒大豆、野菜の生産・販売など



おもな作物

丹波篠山米、丹波黒大豆、丹波黒枝豆、丹波篠山野菜など

わたしたちの思い

美しい自然に囲まれた丹波篠山でしかつくりえない農作物を自分たちの手でつくり、食を通じて丹波篠山の魅力とおいしさを世界中に伝えていきたいと考えています。

こだわりPOINT

肥料を控えめにして、おいしいお米・黒大豆をつくっています。少量多品目の野菜は、基本的に農業・化学肥料を使わず、土中のミネラルなどを吸収させ、濃厚な味わいに育てます。



Web、直売所、高速道路SAなど販売力に強み 安心・安全でおいしい農作物を食卓へ

昼夜の寒暖差が大きな丹波篠山。「アグリヘルシーファーム」はこの地で家族経営型農業を営んでいた、現代表・原智宏さんの父親が2001年、法人化しました。丹波篠山でしかつくりえない農作物にこだわる同社は、「東の新潟魚沼、西の丹波篠山」と評価を受けるほどの丹波篠山米コシヒカリや、名産の黒大豆、季節の野菜を栽培。牛ふん堆肥を使用し、化学肥料・農薬は極力使わず、ミネラル分を豊富に含んだ水と土壌の力でおいしい農作物を育てます。ショッピングしやすいホームページをはじめ、地元の直売所、高速道路SAなど、消費者に直接届けることができる販売力も強みです。

Staff Interview

庄司 一真さん

兵庫県立播磨農業高等学校から兵庫県立農業大学校へ進学し、2013年に入社。主任として水稲と黒大豆の管理、オペレーター作業を中心に日々奮闘しています。最近は部下も増え、作業の指導やそのやり方についてコミュニケーションを密にとるなど、社内が円滑に回るように意識しています。

DATA

所在地 〒669-2223
丹波篠山市味間1313
TEL 079-506-2794
FAX 079-594-5655
HP <https://www.agri-hf.jp/>
設立 2001年
従業員数 社員14人



Top Message

父から誘われて就農、農業経営へ 地域での活動も糧に

大学在学中、父親から「大規模農業に転換するから」と誘われたのがきっかけで就農しました。5年後に父が病に倒れ、代表に。チャレンジ精神をいつも持ち、地域の活動や勉強会に積極的に参加し、農業経営の糧にしています。



代表取締役
原 智宏さん



丹波篠山市

株式会社丹波篠山大内農場



Staff Interview

眞継 明宏さん(写真左)

2018年9月からこの会社で働き、2019年3月正社員に。耕作放棄地が増えている今、日本の原風景を保てるよう、がんばりたい。

上田 浩一さん(写真右)

ボランティアから就農。地域の基幹農家での仕事は、勉強することばかりです。観光農園の枝豆収穫は、丹波篠山ブランドを守るためにもお客さんに良い印象を持ってもらえるようがんばります。

生産・加工から販売まで、観光農園の経営も畜産農家と連携しての循環型農業

「丹波篠山大内農場」は、丹波篠山の農業に適した気候ときれいな水を生かし、丹波篠山コシヒカリと丹波篠山黒豆・黒枝豆を中心に栽培。畜産農家と連携して、稲わらを牛の餌にし、牛ふん堆肥で土づくりをする、循環型農業を行っています。農産物だけでなく、酒米からつくりだす日本酒などの加工品の生産販売にも力を入れています。2007年からは黒大豆枝豆狩りができる観光農園を開設。収穫期の10月には、舞鶴自動車道丹波篠山インターから約20分の好立地もあって、毎年2万人が来園するほどの人気です。観光農園では新米の直売も行っています。

事業内容

農業生産、作業受託、観光農園

おもな作物

丹波篠山コシヒカリ、丹波篠山黒豆、丹波篠山黒枝豆



わたしたちの思い

昼夜の気温の寒暖差が大きい気象条件と、消費地に近いという、恵まれた立地条件の丹波篠山市で、先人が築いた丹波篠山ブランドの米と豆を中心に農業経営を行っています。

こだわりPOINT

今田町のきれいな水を生かし、畜産農家とも連携して土づくりを行い、安心でおいしい米と豆をつくっています。とくに丹波篠山コシヒカリと丹波篠山黒豆を中心に栽培しています。



DATA

所在地	〒669-2163 丹波篠山市今田町本荘395	
TEL	079-597-2517	
FAX	079-597-3519	
HP	https://www.tamba-ouchi-farm.com/	
設立	2008年	
従業員数	社員9人	

Top Message

年中通じて栽培できる作物の導入を検討地域の農業者と連携

米と豆を基幹に、年間を通じて栽培できる作物の導入や、観光農園も年間営業など、課題解決のための構想を考えています。今田町の有志農家で行っているにんにくの栽培など、農業者で連携し、地域活性化にも積極的に取り組んでいきたい。

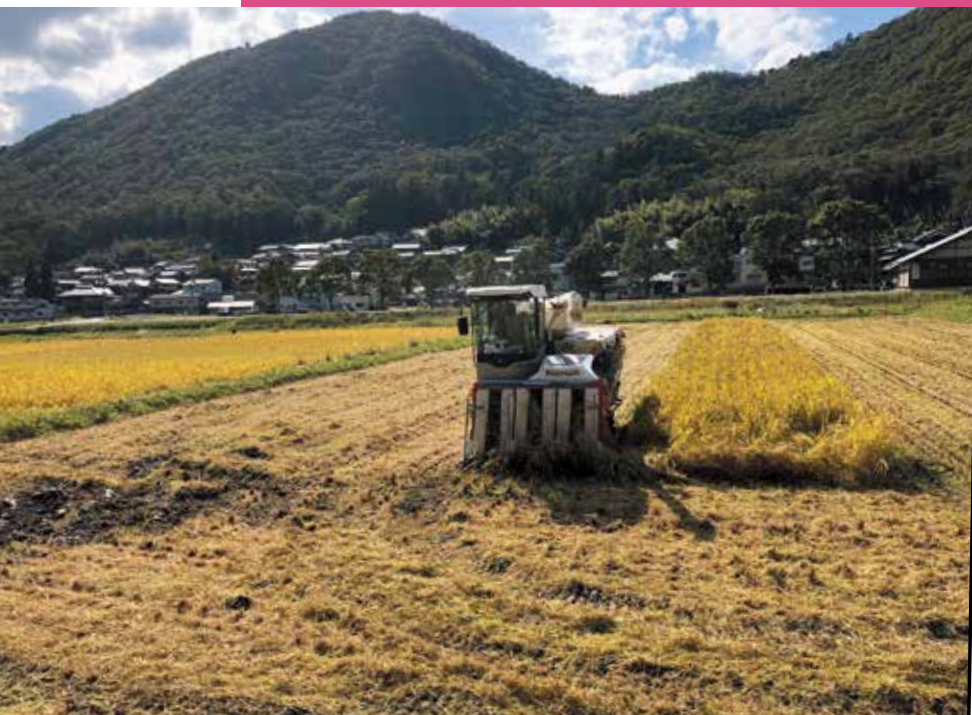


代表取締役
大内 正博さん



丹波篠山市

株式会社丹波篠山岸本農場




事業内容
農作物の生産・販売、
加工品の生産・販売

おもな作物
特別栽培米(コシヒカリ・ミルクQueen・キヌヒカリなど)、丹波黒大豆(枝豆も含む)、大納言小豆、なた豆などを栽培しています。

わたしたちの思い
お客様に美味しいと感じてもらえるものを作りたいという思いが一番です。私たちが営農をする今田町は中山間地で日照時間が短く、水質の良い水源が多く、しっかりとした味のお米や大豆が作れます。

こだわりPOINT
水稲と黒大豆、大納言小豆、なた豆など、丹波篠山の米と野菜を守っていきたいと思っています。特別栽培米など、できるだけ農薬を使わないように工夫しています。



Staff Interview

岸本 修一さん

大学を卒業後、東京で9年間食品卸売企業で営業を経験し、2018年8月に故郷の篠山に戻り就農。サラリーマンの経験を活かして、地域の農業発展に貢献したいと考えています。何かを育てるといふ農業(一次産業)は思い通りには行かないからこそ、やりがいがあり、作物を育てる中で大きな喜びを感じることができる仕事だと思います。そして時代や環境の変化が速い中でも変わることのない、お客様の心に届くようなおいしい作物を作りたいです。

寒暖差の大きな中山間地 今田町の農業を守りたい

丹波焼の里として知られる丹波篠山市今田町。「丹波篠山岸本農場」代表取締役の岸本一朗さんは1997年に丹波農業協同組合を退職し、兼業農家から専業農家として独立。今後の事業拡大を見据え、2018年3月に法人化しました。寒暖差の大きな中山間地で、水稲及び丹波篠山の特産品である丹波黒大豆・丹波黒大豆枝豆を中心に、大納言小豆やなた豆なども栽培。そのほか、6次産業として黒豆茶・なた豆茶などの販売取り組みも実施。地域の担い手として、農地の引き受け(管理)や農作業の受託も行い、現在は水稲を約16ha、黒大豆・小豆などを約6haの規模で営農しています。

DATA

所在地 〒669-2143
丹波篠山市今田町釜屋414

TEL&FAX 079-597-2025

設立 2018年

従業員数 取締役3人、非常勤3人

Top Message

「おいしい」という感動を届けたい

自然相手なので、毎年気候に合わせて状況判断をしなければいけません。長年農業をする中で感じることは、「毎年が1年生」だということです。その中でも地区の仲間と協力して農業を守り、切磋琢磨して発展していくことが大切です。自分たちの作った農産物で一人でも多くの人に「おいしい」という感動をお届けできればと思います。



代表取締役
岸本 一朗さん



丹波篠山市


株式会社丹波たぶち農場



事業内容
農産物の生産・販売、観光農園(黒大豆、枝豆、いちご)の運営、貸農園の運営

おもな作物
水稲(コシヒカリ)、黒大豆、黒大豆枝豆、いちご

こだわりPOINT
自家製堆肥を使って土づくりをし、丹波の気候・土壌を活かした、環境と体にやさしい農業を行っています。



Staff Interview

高口 大輔さん(写真左)

大学は社会学部ですが、農業に興味があり、卒業後すぐに法人に入社して就農。2法人を経て2003年に入社しました。いちごの責任者として、観光農園の来場者が多い春休みにうまく収穫できるように努力しています。安定しておいしいいちごを作ることができるよう、勉強の日々です。

森下 一輝さん(写真右)

北海道の酪農学園大学を卒業して、2017年4月に入社しました。黒大豆の仕事をメインに行っています。さまざまな黒大豆の栽培方法がある中で、どの方法が効果的で収量が上がるか、研究しながら学んでいます。農作業では、収穫の作業が1年間の成果を実感できるので、一番ワクワクします。

自家製堆肥で土づくり、濃厚な味わいの農産物を記憶する農業から記録する農業へ

昼夜の温暖差が大きく、濃い味わいの農産物ができる丹波篠山。「丹波たぶち農場」はこの地で50年以上米づくりを行っています。土づくりにこだわり、80haのほ場の全てに自家製堆肥を使用。農薬・化学肥料を一切使用しない無農薬栽培のコシヒカリをはじめ、全ての作物は農薬・化学肥料の使用は極力抑えて栽培しています。代表の田淵真也さんは「記録より記憶だった過去の農業を、マニュアル化して効率化していきたい」と、ドローンなどを使って栽培状況の数値化など、ICT化を進行中。2010年から観光農園も運営。シーズン時は1カ月に6000人が訪れます。

DATA

所在地 〒669-2723
丹波篠山市口阪本158-3

TEL 079-593-0545

FAX 079-593-1123

HP <https://www.tabuchi-farm.jp/>

設立 2002年2月

従業員数 社員7人、パート8人



Top Message

人数が多い職場で職種も多様

自家製堆肥は牛ふん、籾殻などで作っており、専門家と一緒に年に2~3回勉強会をして、皆で土づくりに取り組んでいます。観光農園や貸農園と事業が増えたので、生産・販売・企画と幅広い仕事があります。「これをしたい」という目標がある人は、自分に合う仕事を見つけられる可能性が大きいです。



代表取締役
田淵 真也さん



丹波市

株式会社芦田ポトリー



事業内容

養鶏業、鶏卵販売、菓子・総菜の製造・販売、鶏肉加工品販売



おもな産品

開放型ケージ鶏舎(1万羽)と平飼い鶏舎(1000羽)で鶏卵を生産。自社卵のスイーツや総菜の製造販売、自社鶏のハム・ソーセージ販売を行っています。

わたしたちの思い

丹波の自然に育まれた鶏の卵はおいしくて濃厚。卵の生産を通じて、食の魅力と大切さを伝えたいとの思いで、さまざまな事業を展開しています。

こだわりPOINT

風通しの良い開放鶏舎で、健康な鶏を育てて、安心しておいしく食べられる卵を生産しています。餌は遺伝子組み換えでない、とうもろこしや大豆粕を主原料としています。



こだわり卵で菓子や総菜の製造販売も卵をメインに循環型農業を実現

芦田ポトリーの平飼い鶏舎は丹波市氷上町の旧幸世村地区に、開放型ケージ鶏舎は市島町にあります。実家が鶏卵問屋だった芦田昭也さんは、1990年に養鶏業を始め2012年に法人化。鶏卵製造のほかに、こだわりの卵を使った菓子や総菜の製造販売や平飼い鶏を委託加工して、鶏肉加工品の販売にも実績を積んでいます。2017年に堆肥舎を完成させ、発酵鶏ふん堆肥の製造販売、さらに自家製堆肥を使つての米・野菜の製造販売など、事業の幅を広げる取り組みを行うことで循環型農業につなげています。鶏卵や菓子、総菜は現在、生協などを通じての販売が大半となっており、直売所の開設を目指しています。

DATA

所在地 〒669-3645
丹波市氷上町鴨内967

TEL 0795-88-9800

FAX 0795-88-9801

HP <https://ashidapoultry.jimdofree.com/>

設立 2012年

従業員数 社員9人



Top Message

農家と消費者をつなぐ窓口に農業経営者を育てたい

作る側の農家と(食べる側の)消費者の繋がりを目的に、農家食堂のようなものをこの地域に作りたくと思っています。新規就農者には、経営者として人件費をきちんと出せる農業ができるように育てていきたい。



代表取締役
芦田 昭也さん



丹波市

有限会社井寄牧場



事業内容

肉用牛の生産・販売、家畜飼料の販売

おもな産品

黒毛和牛頭数2350頭(内訳/県外肥育1300頭、但馬牛肥育600頭、繁殖但馬牛100頭、哺育350頭)

わたしたちの思い

世界に誇る但馬牛・神戸ビーフの生産に力を注いでいます。長年の知識と経験、牛を見極める目を大切に肥育管理し、丹波の自然の中でストレスを与えずに育てています。

こだわりPOINT

私たちの牧場は、クリーンでドライな環境づくりを徹底。さらには丹波の自然が育む清らかな水を活かし、牛がのびのび過ごせる飼育を追求しています。2023年度からは繁殖部門を新設。但馬牛の生産体制を強化し、より良い品質と安定した供給を目指しています。



Staff Interview

柿葉 翔悟さん(写真左)

兵庫県立農業大学校を卒業後、井寄牧場へ入社4年で繁殖部門リーダーを任されました。大好きな但馬牛の血統を深掘りし、日々もっと良い牛づくりに挑んでいます。

笹原 亮さん(写真右)

兵庫県立農業大学校を卒業し、2018年4月入社。生き物が好きでこの道に入りましたが、牛が相手なので忍耐力も必要。ちゃんと休みがあり、こちらの希望を聞いてくれるのもありがたいです。

クリーンな牛舎でストレスなく肥育 独自配合の飼料でおいしい牛肉を生産

井寄牧場は姫路市夢前町で畜産を始め、2004年に法人化。2015年に本社を丹波市へ移し、丹波・姫路の両農場で約2350頭の黒毛和牛を肥育しています。そのうち約600頭は但馬牛で、神戸ビーフの生産に力を注いでいます。山間部に広がる丹波農場には、同規格で整備した牛舎が計12棟、さらに哺育牛舎2棟を備え、清潔でゆったりとした環境のもとストレスなく育てています。ウイスキー粕やみりん粕を使った独自のエコフィードに加え、近年は脂の質や歩留まりの向上にもこだわり、より“肉屋が喜ぶ牛”づくりに挑戦しています。海外からの訪問や取引が増えていることから、牧場全体のグローバル化も視野に入れ、ハサップ認定の取得にも取り組んでいます。

DATA

所在地 〒669-3307
丹波市柏原町石戸14
TEL 0795-70-5401
FAX 0795-70-5402
HP <https://iyori-bokujo.com/>
設立 2004年
従業員数 社員10人



Top Message

繁殖・肥育の一貫経営体制のもと
従業員は全ての作業を経験し将来に役立てて

井寄牧場の三代目です。他社で修業後入社し、丹波農場を任されています。どんな餌を与えたらどんな肉になるかなど、獣医として学んだことを生かしています。繁殖肥育一貫経営の体制になり、手探りですがより良い牛作りを目指し努力しています。従業員にはすべての作業を経験してもらい、将来に役立ててほしい。



丹波農場責任者・獣医師
井寄 智之さん



丹波市

有限会社こやま園



事業内容

丹波なた豆の栽培、丹波
なた豆茶の製造・販売



おもな作物

丹波なた豆を栽培、なた豆関連商品の開発・製造(丹波なた豆茶、サプリメント、パウダーなど)

わたしたちの思い

昔から丹波地方で一部民間薬用につくられていたなた豆を、なた豆茶として、加工販売。地元農家と連携し、自社農園で原料のなた豆を栽培。加工も自社工場で行う一貫生産です。

こだわりPOINT

乳幼児にも安心して与えられる、安全安心なものを提供したいと、有機農法にこだわり、なた豆を栽培。契約農家約50名が、我が社で決めた基準の有機栽培を行っています。



Staff Interview

竹村 香澄さん(写真左)

JAで約8年間勤務し、出産を機に退職。子育てしながら農業に携わりたいたい、こやま園に就職しました。インスタなどでなた豆の効用などを発信し、若いお母さんに情報を伝えたい。

小山 海さん(写真右)

調理師などの勉強をした後に就農しました。9月～11月はなた豆の栽培で、他の時期は営業として、海外のイベントにも出かけます。農業と営業の両方できるのが、おもしろい。

丹波で古くから薬用使用された「なた豆茶」を丹波の新ブランドに、海外進出も積極的に

農家の十代目である小山伸洋さんは、ゼネコンの現場監督として働く傍ら、なた豆に着目し、その効能効果や食べ方、販売などの研究を始めました。有機栽培にこだわり、生産者グループ「有機豆本舗丹波」を2001年に設立し、なた豆の栽培と販売を開始。その評判が口コミで広がり、さらに2004年にテレビ番組に取り上げられてから、購入希望者が急増。2006年法人化し、「丹波なた豆」(2008年兵庫県認証食品ひょうご安心ブランド)を商標登録しました。2012年の「香港Food Expo」出展以来、アメリカ、香港で販売を開始するなど、人脈を作って海外進出を積極的に行い、香港とベトナムに現地法人を設立し事業展開しています。

DATA

所在地 〒669-4141
丹波市春日町黒井1972
TEL 0795-74-2152
FAX 0795-74-0058
HP <https://kyme.jp/>
設立 2006年
従業員数 社員9人



Top Message

農林水産省
「ディスカバー農山漁村の宝」特別賞に
大学との共同研究も進行中

なた豆を多角的に展開するため、海外を飛び回り、効能に関しては、大学と共同研究を進めています。輸出額は2014年から4年間で10倍に。2018年に農林水産省「第5回ディスカバー農山漁村の宝」の優良事例として選定され、特別賞を受賞しました。



代表取締役
小山 伸洋さん



丹波市

株式会社竹岡農園



農家ゲストハウス 路(みち)

Staff Interview

楳木 舞さん

大阪で飲食業などを経験し、自然が好きで農業に興味があり、笛路村へ来ました。ここは村の人同士の繋がりが強いですね。農業とレストランのメニュー作りもしています。

農業に付加価値を付けたいと レストラン、民宿、酵素温熱風呂も運営

日本の原風景が残る里山で、農業を軸にレストラン、ゲストハウス、酵素温熱風呂を展開している「竹岡農園」。山間地の棚田で、農薬や化学肥料を使わずに野菜を栽培。源流地域の生活排水や塩素が混じらない水をまいて育てた野菜を“源流野菜”として、直接消費者に届けて、ゲストハウスやレストランでも提供しています。2017年に始めた農家ゲストハウスでは、菜食料理と里山の暮らしを味わえるほか、畑で農業体験もでき、企業研修や大学生のワークキャンプなどにも利用されています。米ぬかを多様な微生物で発酵させた酵素温熱風呂もあり、その酵素は、畑にまいて循環させています。

事業内容

農産物の生産、農家ゲストハウス、酵素温熱風呂、飲食事業

おもな作物

露地野菜、丹波栗、丹波黒枝豆、丹波大納言小豆など



わたしたちの思い

日本の原風景が残る笛路(ふえろ)村は中山間部に位置しています。耕作地が狭いので、農作物での生産に付加価値を付けようと、農家ゲストハウスや農業体験、レストランなどの事業も展開しています。

こだわりPOINT

丹波市山南町谷川の山里・笛路村で、源流地域のきれいな水で農薬や化学肥料を使わず、独自の酵素で土づくりをし、野菜や丹波栗、丹波黒枝豆、丹波大納言小豆などを育てています。



DATA

所在地 〒669-3131
丹波市山南町谷川2787-1
TEL&FAX 0795-71-1240
HP <https://takeokafarm.com/>
設立 2018年
従業員数 社員4人



Top Message

里山を美しく保全していくために
価値を高め、魅力を発信

1ターンで農業を始めたのが2010年。2018年に法人化しました。ゲストハウス、レストランの開業に続き、NPO法人を立ち上げ、里山ようちえん「ふえっこ」(認定外)も始めました。里山を保全するため、総合的な価値を高め、魅力を発信していきます。



代表取締役
竹岡 正行さん



丹波市

有限会社たまごの郷



事業内容
鶏卵の製造販売

おもな産品


卵を自社ブランド卵「奥丹波の卵」として販売。自社アンテナショップ「たまごとジェラートのお店 yellow」では、その卵を使用したジェラートや焼き菓子を製造販売しています。

わたしたちの思い

空気と水がきれいな丹波の自然の中で健康な鶏を育て、よい卵を提供したいと、茶色い羽毛のポリスブラウン種約6万羽を育てています。

こだわりPOINT

畜産GAPの認証を県内で初めて取得。徹底的に衛生管理された養鶏場で、県産飼料米に魚の煮汁を合わせた餌、ヨモギ粉、海藻などを与え、濃い味わいの卵を生産しています。



Staff Interview

足立 裕美子さん

今では鶏舎全体の管理や集卵作業に携わっています。鶏舎環境の5Sを意識し、責任者として日々の管理に努めています。今後も良質な卵を生産し、消費者の皆様喜んでいただけるよう期待に応えていきたいです。

2019年3月畜産GAPを県内で初めて認証取得 同年7月に高砂市にアンテナショップオープン

鶏卵の加工販売を手掛ける「株式会社籠谷」(高砂市)の関連会社として、2000年に設立された「たまごの郷」。ポリスブラウン種約6万羽を育て、こだわりの飼料を使って、1日約4万5000個のブランド卵「奥丹波の卵」を生産しています。衛生管理・労働環境・飼養環境管理が評価され、2019年3月に畜産GAPを県内の養鶏場では初めて認証取得。同年7月から高砂市でアンテナショップ「yellow」をオープンし、卵を中心とした製品の直売を始めました。目玉商品は自慢の卵を使ったジェラート。丹波ブランドを近隣地区でアピールしています。

DATA

所在地 〒669-3622
丹波市氷上町三原151

TEL&FAX 0795-82-2266

H P <https://www.kagonet.co.jp/okutanba/>

設立 2008年

従業員数 社員10人



Top Message

従業員の働く環境や地域への配慮を見直し
地域との繋がりを大切に

暑さが苦手な鶏への猛暑対策など、養鶏は日々勉強です。畜産GAP認証取得は、従業員の労働環境や周辺への配慮を考えるよい機会でした。近隣の農家に発酵肥料を供給したり、地元小学校の社会学習受け入れを続け、地域との連携も大切にしたいですね。



場長
小島 政徳さん



丹波市

株式会社丹波たかみ農場



事業内容

農作物の生産・販売、
加工品販売



おもな作物

米はコシヒカリ有機栽培とコシヒカリ特別栽培。丹波大納言小豆、丹波黒大豆、丹波栗、有機にんじんを栽培。にんじんジュース(丹波にんじん搾り)、黒豆ご飯の販売も手掛けています。

わたしたちの思い

安心・安全で、おいしくて栄養価のある農産物を有機栽培しています。「ジャパンバイオフィーム」が提唱するBLOF理論をベースに、作物に良い環境づくりをしています。

こだわりPOINT

人の勘に頼るのではなく、ITを使って土壌をデータ分析し、その結果に基づいて肥料を入れ、土壌のバランスを整えます。ITを活用し、理論的な有機栽培を実践しています。



Staff Interview

小林 夢芽さん

2019年に入社し毎日、たかみ農場で機械作業や栽培技術を学びながら働いています。丹波市は有機栽培や栗の剪定講習会などがあり、そこで知識を習得し会社で実践しています。学べる環境が整っている地域は新規就農者にとって農業を始めやすく、また地域の方との交流もあるので都会からきた私でもすぐに仲良くなれました。今後はたかみ農場で更に技術を高め、丹波の土地に恩返しをしながら働きたいです。インターンシップ制度もありますので、ぜひ、たかみ農場で研修してみてください。

しっかりした土づくりで おいしく、栄養価の高い有機農産物を

丹波市の北東部、“有機の里いちじま”として知られる市島町。丹波たかみ農場代表の高見康彦さんは2003年に父親の農場の後継者として、同町で就農。就農後、JAS有機栽培で高品質・おいしさ・高栄養価・多収穫を目指すBLOF理論を学び、土地分析によって肥料計画をし、バランスの取れた土づくりをしっかりと行っています。2018年5月に法人化。水稲と豆類やにんじんととの輪作体系により、除草効果を高める除草対策を実践。今後は常時雇用を増やし、水稲と黒大豆・大納言小豆をバランスよく増やしていく予定です。

DATA

所在地 〒669-4335
丹波市市島町与戸1076
TEL&FAX 0795-85-1912
HP <https://takami-farm.com/>
設立 2018年
従業員数 社員1人、パート2人



Top Message

若手農業者のネットワークを大切に
丹波市産有機農産物を増やしたい

地元農業高校・鯉淵学園を卒業後、11年間JA丹波ひかみに勤務しました。若手農業者で作る研究会の活動など、地域のネットワークを大切に、丹波市産の有機農産物を増やしたい。研修生も受け入れており、5名が独立しました。



代表取締役
高見 康彦さん



丹波市

農地所有適格法人 丹波リーフ株式会社



Staff Interview

瀧 加奈子さん

事務方として、受注量に応じてベビーリーフの成長を見ながら収穫の適期を判断し、収穫の指示を出しています。注文に応えられるよう、成長具合をいつも気にかけています。

ふかふかの土地で育ったベビーリーフ 手摘みで収穫し、新鮮なまま出荷

兵庫県のほぼ中央に位置する丹波市。丹波リーフは昼夜の寒暖差が大きな気候と、地下約70mから湧き出るきれいな深層水を利用し、ベビーリーフを栽培しています。代表取締役の堂本憲造さんは27年間勤務した全農兵庫を退職直後、2011年4月に丹波リーフ株式会社を弟の幸信さんとともに設立しました。現在はビニールハウス145棟、スタッフは、カンボジアからの技能実習生等17人を含む30人に。ふかふかの土地ですくすくと育ったベビーリーフは、丁寧に手で摘みとられ、すぐに包装されて、新鮮なまま出荷されます。

事業内容

ベビーリーフ・
レタスの生産、販売



おもな作物

ベビーリーフ、レタスなどを栽培しています。

わたしたちの思い

安心・安全で、新鮮なベビーリーフを消費者に届けたいという思いを胸に、チャレンジと試行錯誤を続けています。いくつになってもワクワクする農業を目指しています。

こだわりPOINT

土耕栽培にこだわっています。土地の特性を理解した上で、有機肥料鶏ふん、牛ふん堆肥、酵素液肥を使って、野菜に適した土作りを行い、味の濃いベビーリーフを育てています。



DATA

所在地 〒669-3157
丹波市山南町和田1058

TEL 0795-76-1188

FAX 0795-76-1189

HP <https://www.tanbaleaf.com/>

設立 2011年

従業員数 社員、技能実習生等含むスタッフ30人



Top Message

元気な田舎を取り戻したい 田舎に合う産業はやはり農業

耕作放棄地・少子高齢化・空き家問題など、元気がない田舎の再生は、田舎に合う産業、つまり農業が担っていかなくては。農業で元気な田舎を取り戻したい。そのためには、農業が大好きな若い人の力が必要です。私と一緒にチャレンジしませんか。



代表取締役
堂本 憲造さん



丹波市

ひょうたん農場株式会社



事業内容

農産物の生産・販売、但馬牛の繁殖

おもな作物

但馬牛、水稲(コシヒカリ)、酒米、黒大豆、大納言小豆、栗



こだわりPOINT

米作りと畜産を複合経営しており、自社で循環型農業を実践しています。



兄弟で米作りと畜産を担当 耕畜連携の循環型農業を自社で完結

Staff Interview

須原 秀次さん

牧場長として、但馬牛繁殖の責任者です。病気を見逃さないよう、毎日牛の調子を見ています。肥育牧場に出荷した牛が品評会で良い成績を取ったときなどは、うれしいですね。これからも勉強です。会社の役員としては、従業員全員がちゃんとした生活ができ、将来の設計ができるよう、兄弟で力を合わせて運営していきたい。役員はじめ社員も若い人が多いので、楽しく働けると嬉しいです。

兄弟で営む「ひょうたん農場」は、長男で代表取締役・須原隆一さんが米作り、次男の秀次さんが畜産を担当しています。昼夜の寒暖差が大きく、水がきれいな丹波の環境を活かし、コシヒカリと酒米を生産。酒米は地元の酒蔵に直接納めています。丹波の特産品である黒大豆と大納言小豆の栽培にも取り組んでいます。牧場では55頭の但馬牛の母牛を管理し、子牛を生産。米作りで出たワラを牛の飼料とし、牛ふんを米作りの堆肥とする循環型農業を、自社で完結しています。

DATA

所在地 〒669-4302
丹波市市島町中竹田1678-2
TEL 0795-78-9487
FAX 0795-78-9488
HP <https://hyotanfarm.co.jp/>
設立 2019年4月
従業員数 社員4人、季節雇用1人



Top Message

自分の時間を大事にできる農業を

有機栽培にも取り組み、農作業の機械化を考えています。いかにニーズに合う物を届けられるかと常に考え、米や野菜作り牛の繁殖をしています。複合経営しているので、農業と畜産の両方を学ぶことができます。休みがなくきついという農業のイメージを覆して、働く人それぞれが自分の時間を大事にできる職場にしていきたいです。



代表取締役
須原 隆一さん



丹波市

有限会社まるきん農林



事業内容

農産物の製造・販売、作業受託、
新品・中古農機販売・修理

おもな作物

水稻は丹波ひかみ米「コシヒカリ」「あいがもコシヒカリ」(有機JAS栽培米)、「ミルキークイーン」、「夢ごこち」。ほかに丹波大納言小豆をつくっています。



わたしたちの思い

安心でおいしいお米を消費者に届けたいとの思いで、中国山脈から湧き出る清流と、霧深い気候を生かして、米づくりをしています。

こだわりPOINT

化学肥料・農薬の使用を減らし健康な土壌づくりをして、おいしいお米を提供しています。1万袋対応の玄米低温倉庫があるため、集荷したお米を新鮮なまま年中供給できます。



Staff Interview

足立 雅典さん

大学農学部を退学して地元に戻り、2018年3月に入社しました。専門が農業土木だったのですが、実際は作物を育てることをしたかった。今は毎日が勉強。ほ場での作業は、一つひとつの作業の役割を理解するよう心がけています。農業はきついというイメージがありますが、休みもきちんとあり、ありがたいです。

社訓「人つくれ、土つくれ、米つくれ」を大切に チームワークで継続できる会社づくり

経営面積20haのうち19haが水稻と、米づくりに取り組む「まるきん農林」。恵まれた自然条件を生かして、丹波市青垣町ほか近隣の約30人の農家と「まるきんグループ」を作り、グループで栽培基準を揃えた「丹波ひかみ米」をつくっています。父親に続く二代目の堀 謙吾さんは、社訓「人つくれ、土つくれ、米つくれ」を大切に、家族経営から「入ってよかったと思われる会社に」と法人化。従業員の資格取得や労働環境改善に積極的に取り組んでいます。新品、中古農業機械販売・修理と経営の多角化も進めています。

DATA

所在地	〒669-3834 丹波市青垣町中佐治735-1	
T E L	0795-88-0230	
F A X	0795-80-6500	
H P	https://www.instagram.com/tanbamarukinnourin/	
設立 従業員数	2002年 社員5人	

Top Message

大切にしたい“丹波ブランド”
地域農業者全体の盛り上げが必要

2018年に社長になり、企業を発展継続させるのが役目と思い、「1年1社新規顧客開拓」と営業もがんばっています。丹波ブランドを盛り上げるためには農業者全体の盛り上げが大切。私も地域のための活動に積極的に取り組んでいます。



代表取締役
堀 謙吾さん



Staff Interview

新居田 和也さん(写真上)

農協の畜産関係の部署で働いていましたが、現場の仕事がしたくて、2013年に入社しました。午前6時からの搾乳に始まり、牛舎の清掃と何でもします。牛の発情期や妊娠している牛なら逆子でないかなど、常に健康状態のチェックを心掛けています。今では、牧場内の全ての牛を見分けることができます。

事業内容

生乳の生産・出荷、乳牛の繁殖・飼育

おもな産品

生乳(淡路島牛乳株式会社へ出荷)、肉用子牛(F1(交雑種)、ホルスタインの雄牛)



こだわりPOINT

淡路島の山間部の空気が良い場所で、乳牛をストレスなく育て、安心・安全な生乳を生産しています。



開放的で清潔な牛舎

清潔な牛舎で ストレスなく育つ乳牛 安心・安全でおいしい牛乳に

淡路島のほぼ中間の山間地で、約200頭の乳牛(ホルスタイン)を育てる「SDF」。毎朝搾乳した生乳は、淡路島牛乳株式会社に出荷し、淡路島牛乳として消費者に届きます。安心・安全な生乳を作るには牛にストレスを与えないように育てるのが一番と、開放的な牛舎の中、清潔な環境作りに力を入れており、わらをまいて臭いを軽減しています。牛ふんたい肥として、地元農家に販売も。代表取締役の奥村重宏さんは長年、洲本市畜産共進会に手塩にかけて育てた牛を出し続けており、育種改良にも熱心に取り組んでいます。

DATA

所在地 〒656-1335
洲本市五色町広石下1244

TEL 0799-35-0671

FAX 0799-62-1586

設立 2019年5月

従業員数 社員4人

Top Message

アットホームな雰囲気の中で 楽しく仕事を

少人数でアットホームな雰囲気が、この会社の良さ。どの従業員とも垣根なく接するようにしています。毎朝搾乳しながら牛の健康をチェックするなど、細かい観察眼も必要ですが、まじめで明るい人なら大丈夫。牛相手の仕事なので、やはり動物好きな人の方が、楽しく働けると思います。



代表取締役
奥村 重宏さん



事業内容

農産物(たまねぎ)の生産・加工・販売
たまねぎを中心とした青果物の仲卸

おもな作物

有機たまねぎ



こだわりPOINT

有機JAS認定、「GLOBALG.A.P.」を取得し、有機栽培にこだわってたまねぎを栽培しています。



南あわじ市にある大型乾燥・冷蔵庫

Staff Interview

溝渕 忠さん(写真左)

実家はたまねぎとレタス、米を作っている農家です。有機栽培に興味があって、2013年に入社しました。冷蔵庫の施設で働き、貯蔵方法などを学んだ後、農園部に異動しました。有機栽培をしっかりと学び、将来実家の農業を継いだときに活かしたいと思っています。

川上 真弘さん(写真右)

農学部出身で、2020年5月に入社。有機栽培をしていること、G-GAPを取得していることが入社決め手になりました。実際に作業する中で、興味を持っている有機栽培をしっかりと学んでいきたいと思っています。

自社生産分は有機栽培で たまねぎ農家と調理法に合わせた たまねぎ作り

青果物の仲卸業を営んでいる「新家青果」は、2000年にたまねぎの自家栽培をスタート。「淡路島のたまねぎの生産量が減少する中で、付加価値のあるものを作りたかったので、有機栽培に取り組みました」と代表取締役・新家春輝さん。農家が実践できる栽培の研究も続け、慣行栽培を行う農家に有機栽培で得たノウハウを提供し、糖度9以上の加熱用「あまたまちゃん」と、辛み成分が少ないサラダ用「さらだちゃん」を誕生させました。棚で管理する方式の大型乾燥・冷蔵庫を備え、貯蔵法を工夫することで年間供給を可能にしています。

DATA

所在地 〒656-1321
洲本市五色町鮎原中邑1005

TEL 0799-32-0024

FAX 0799-32-1153

HP <https://www.shinkeseika.co.jp>

設立 2003年5月

従業員数 社員16人、技能実習生11人、パート70人



Top Message

「GLOBALG.A.P.」を取得、 世界進出を視野に

淡路島以外に小野市と茨木市に事業所があり、今は全国展開を考えています。輸出を視野に2010年にGLOBALG.A.P.を取得。将来的にはベトナムや中国で現地栽培をしたいですね。農家との関わりが深いので、モデルとなるような農業を研究・指導したいという思いがある人に働いてもらいたいと考えています。



代表取締役
新家 春輝さん



Staff Interview

杉山 輝希さん

神奈川県立かながわ農業アカデミー卒業後、2019年4月に入社しました。横浜出身なので、淡路島の自然豊富な環境が新鮮です。たまねぎや葉物野菜の栽培担当です。たまねぎの種をまき、育て収穫する一連の作業の中で、収穫が一番自分の仕事の成果を実感できて喜びを感じます。将来は学校の友人たちと一緒に、独立就農する予定です。消費地に近い埼玉県あたりになるかと思っています。

DATA

所在地 〒656-0411
南あわじ市倭文高337

TEL 0799-43-2323

HP <https://www.aandh.jp/>

設立 2014年2月

従業員数 社員6人



甘くて日持ちがする「島玉ねぎ」 循環型農業で育つ 安心・安全、おいしい野菜

約12ヘクタールの畑で、たまねぎ・ブロッコリー・はくさいを栽培する「A&H」は、淡路島の牛ふん・鶏ふん堆肥に加えて緑肥を使い、淡路島内での循環型農業を実践。「たまねぎは糖度が高く、しかも日持ちするよう工夫しました。甘さと保存性のバランスの良いのが特色」と代表取締役・菱池崇さん。およそ30年前から栽培するブロッコリーとともに、オリジナルブランド「島玉ねぎ」「島ブロッコリー」として販売しています。ひょうご安心ブランドの認証を受け、安心・安全な野菜づくりを続けています。地域の農業を維持することにも注力し、農作業受託も行っています。

事業内容

農産物の生産・卸売・加工・販売、
農作業受託

おもな作物

たまねぎ、ブロッコリー
(オリジナルブランド
「島玉ねぎ」「島ブロッコリー」
として販売)、干し
たまねぎ、はくさい、米



こだわりPOINT

たまねぎ・ブロッコリー・はくさいは、ひょうご安心ブランドの認証を受け、低農薬・有機肥料で安心・安全な野菜を生産しています。



Top Message

生産性を上げて地域農業を維持

作物の持っている力を引き出す肥料の研究に協力するなど、日々勉強することは多いです。品質を向上させ、販売単価を上げ、生産性を上げることが、これからの農業で大切なこと。午前8時～午後5時の労働時間を決め、ほとんど残業をなくすように心がけています。農業は情報交換が大切なので、これがしっかりできる人、農業が好きの人を求めています。



代表取締役
菱池 崇さん



事業内容
農産物の生産・販売

おもな作物
たまねぎ、水稻

こだわりPOINT
自社ブランド「蜜玉(みつたま)」は有機肥料100%で育てた、特別栽培の淡路島たまねぎ。その土作りや肥料へのこだわりは、毎年研究し、進化させ続けています。







Staff Interview

井川 翼さん

社長にほれ込んで、営業マンから転身しました。農業はノーストレス。農業は辛いというマイナスイメージを払拭したくて、魅力をSNSで情報発信中です。

DATA

所在地 〒656-0456
南あわじ市神代地頭方1225

TEL 0799-20-4301

FAX 0799-20-4302

HP <https://2525farm.co.jp/>

設立 2012年

従業員数 社員9人、非常勤5人



自社ブランドたまねぎを「蜜玉」と商標登録 毎年進化する、「蜜玉」のこだわり

淡路島の南、三原平野で主にたまねぎを栽培している2525(ニコニコ)ファーム淡路島希望食品有限会社。平均年齢30歳にも満たない若者の集団です。2012年代表取締役迫田瞬さんが前職の会社から資金援助を得て、南あわじ市で会社を立ち上げ、55aの畑でたまねぎ作りを始めました。全くの素人からのスタートですが、設立当初から他と差別化した商品作りを意図し、2016年7月には自社で栽培するたまねぎを、「蜜玉」として商標登録。主に百貨店やスーパーに出荷し、全国展開しています。土作りや肥料の研究を重ねて生まれた「蜜玉」は、さらに栽培方法を毎年進化させています。

Top Message

農業だけでなくマルチに働ける人材を育てたい
インスタグラムで農園情報を毎日発信中

マルチに働ける人材を育てていきたい。井川が情報発信に力を入れているように、農業だけでなく、いろいろな仕事に関わっていきける環境づくりに力を入れています。



代表取締役 迫田 瞬さん



Staff Interview

眞田 太介さん

呉服業界で14年間働き、農業知識ゼロで2016年4月に入社。1年目から農業責任者として売上・経費・利益を管理するために、種子・肥料などの発注、人員の手配や人件費の管理を全て任せてもらいました。2020年11月に亡き兄の会社だった「Will Act」という社名を残したく、三田青果の分社として独立。独立後も農業機械もそのまま使わせてくれ、ほ場も準備してくれるなど、手厚いサポートがありがたいです。これからは淡路島の農業の発展に貢献できたらと思っています。

DATA

所在地 〒656-0426
南あわじ市榎列大榎列328

TEL 0799-42-2830

FAX 0799-42-6267

HP <https://mita-onion.com/>

設立 1993年1月

従業員数 社員4人、技能実習生2人



事業内容

農産物の生産・卸売・加工・販売
農業者の研修およびコンサルティング

おもな作物

たまねぎ(オリジナルブランド「絆たまねぎ」)、キャベツ、はくさい



こだわりPOINT

100年以上歴史のある淡路島のたまねぎを守り、さらに発展させるため、農家のサポートと農業経営者の育成・支援に取り組んでいます。



淡路島の南部、三原平野に広がるほ場

淡路島で農業と経営を学び、社長を目指す働きながらノウハウを覚え農業経営者に

「三田(みた)青果」は1965年、青果仲卸の会社として創業。2017年に生産部門を設立。「農家の高齢化と後継者不足のため、毎年作付けが減少する現状を打破するには農業経営者の育成が必須」(代表取締役・青山巽哉さん)と、働きながら農業経営を学ぶことができる会社運営をしています。農家の後継ぎのための修業や永年雇用を希望するスペシャリストコースと、淡路島で3年後に独立を目指すプロフェッショナルコースがあり、独立後は分社としてサポート。多くの農業経営者を育成・輩出することにより、日本の「農」をおもしろくしていきます。

Top Message

10年間で13人の農業経営者を育成したい

農業は、「良い野菜を作る=安定する」とは限りません。当然プロとしてよい野菜を作る技術・経験は大切です。しかし同じくらいに人(人件費)・物(機械類)・お金(備品経費)をどのように考え動かしていくかも大切です。私は農業でしっかりと経営できる経営者を輩出していくビジョンを持っています。もっと若い人に挑戦していただきたい。



代表取締役
青山 巽哉さん



淡路市

株式会社淡路の島菜園



事業内容

農産物の生産・販売、栽培コンサルティング、レストラン・カフェの運営、いちご狩り・バーベキューの運営

おもな作物

トマト、いちご、メロン、もも、ぶどう



こだわりPOINT

トマト・いちごの栽培を軸に、農家レストランを開業。農業、レストラン、カフェ、直売所と6次産業化を押し進めています



ハウス内の床に座ってつろぐことのできる「いちごピクニック」

Staff Interview

地主 守さん(写真左)

農産物の生産を行う栽培部の責任者として、栽培全般から従業員の教育、売上、経費管理まで、全ての責任を持っています。2015年の法人化を機に人材派遣会社から転職、入社しました。自分たちが作りたいいちご、トマトを「おいしい」と言ってもらえるよう、努力する農家(技術者)であり続けたい。

武井 風果さん(写真右)

2018年入社で、レストランカフェの店長です。メニュー設定や接客はもちろん、トマトハウスの手入れ、定植もします。夏にメロンを作ってもらって新メニューを考えるなど、栽培担当の人と意見交換できるのが強みです。何事も楽しいと思ってやれる人に向いている職場です。

高い栽培レベルと、エンタメ事業体験、カフェ、直売、レストランなど、多様なスキルを持つ人材が力を発揮

トマト農家としてスタートした「淡路の島菜園」は、2019年あわじ花さじき近くに農家レストラン「グリナリウム」を開業。以来、新感覚のいちご狩りや夏季のバーベキューを運営。2020年には築110年の醤油蔵をリノベーションし、カフェと直売所をオープンするなど、アイデアあふれる事業を展開しています。トマトやいちごから、メロン、もも、ぶどうへと、品目も面積も拡大を続け、常にチームやスタッフも成長しています。

DATA

所在地 〒676-1726
淡路市野島常盤1550-10
TEL&FAX 0799-70-6463
HP <https://www.greenarium.jp/>
設立 2015年1月
従業員数 社員12人、パート23人



Top Message

仕事を楽しめて、自分で決める覚悟がある人集まれ

植物をどれだけ理解し、その力を引き出せるか。そして、引き出したおいしさを、どれだけお客様に価値を高めて届けられるか。そんな事業です。それぞれが成長した後どんな世界をみんなで作っていいのか、楽しみです。



代表取締役
大森 一輝さん



事業内容

農産物の生産・販売

おもな作物

たまねぎ(オリジナルブランド「あやたけ」として販売)、トマト、米



こだわりPOINT

地域の竹を粉にして作った肥料や、腐植土、堆肥など、全て淡路島産にこだわり、農薬・化学肥料を極力使わずに、甘くておいしいたまねぎを作っています。



冷蔵貯蔵施設できめ細かく温度管理をし、品質を維持します

Staff Interview

バーンティ・リュウさん(写真左)

2019年ベトナムから来ました。たまねぎをネットに詰める出荷作業が主な仕事です。定植や収穫も大丈夫。ベトナムに帰国したら、日本のようにたまねぎをきれいにして売ることを教えたい。

たまねぎを種から育て 栽培・販売まで自社で一元管理 地元の竹に着目、竹粉を肥料に育てた「あやたけ」

中山間地にある15ヘクタールの畑で、たまねぎを主に栽培している「池上農場」。種から苗を育て、販売までを自社で一元管理。きれいな地下水を汲み上げて育苗。地元の竹を粉砕した竹粉を混ぜた肥料を土にすき込んで、栄養分を吸収しやすい土壌とし、甘くて旨みがあり、栄養価の高いたまねぎを育てています。これをオリジナルブランド「あやたけ」として2015年5月から販売。「淡路島が誇るたまねぎを世界に発信したい」と、代表取締役の齋藤亜紀美さん。農薬・化学肥料を減らした栽培で、2018年にひょうご安心ブランドに認証されました。

DATA

所在地 〒656-1551
淡路市高山甲504
TEL 0799-86-0295
FAX 0799-70-6889
HP <https://www.awajishima-farm-ikegami.com/>
設立 2010年2月
従業員数 社員14人、特定技能5人、パート2人



Top Message

女性経営者ならではの発想で 経営展開

早生から晩生まで8種類のたまねぎを、点する畑でその土地に合う栽培方法で育てています。今年はさらに畑を増やす予定です。栽培管理・収穫などの農作業のほか、出荷までの皮むきやネット詰めなどの作業、配達と、たくさんさんの作業があります。いろいろなことをやってみたい人に向いている仕事だと思います。



代表取締役
齋藤 亜紀美さん



事業内容

花き園芸・観賞用植物の栽培および販売、造園土木・設計、施工、調査

おもな作物

花き全般



こだわりPOINT

公共施設の花苗の植え付け、管理をはじめ、造園、特殊伐採など、花と緑を通して暮らしに彩りを提供しています。



温室で栽培温度をコントロールし、1月にチューリップを咲かせます。

Staff Interview

初田 健一朗さん(写真左)

造園業からの転身で、2019年に入社しました。同年、2級造園施工管理技士の試験に合格。資格を取得すると給料が上がるので、励みになります。個人宅の庭の手入れの仕事もあり、和風庭園が好きです。せんだがうまくなりたいと勉強しています。

中村 拓真さん(写真右)

2014年4月入社で、公共施設の維持管理やチューリップの栽培など、幅広く仕事をしています。公共施設の植栽管理の仕事をしているとき、「きれいな」と入場者が喜んでる声を聞くと、やりがいを感じます。特別な技術が必要な特殊伐採もしています。無事に仕事ができるときには達成感があります。

花き栽培から造園、調査まで幅広く オンリーワンの 望まれる仕事ができる会社に

花き栽培からスタートした「金岡光輝園」は、おのころアイランド(現・淡路ワールドパークONOKORO)オープン時に花苗を納品すると同時に植え付けと管理も依頼され、造園業に大きくシフト。以来、大阪花博、淡路花博も同じように関わってきました。「現在は花き栽培1に対し造園業9ぐらいの割合です」と代表取締役・金岡秀和さん。神戸空港の植生維持や、あわじ花さじきの管理業務も行っています。加えて指定名勝庭園の復元工事や寺の大イチョウなどの特殊伐採など、「望まれる仕事があればやる」と、オンリーワンの技術を磨いています。

DATA

所在地 〒656-2131
淡路市志筑2219
TEL 0799-62-1470
FAX 0799-62-1586
HP <https://www.kokien.com/>
設立 1991年5月
従業員数 社員11人、パート2人



Top Message

一芸に秀でた人が活躍できる職場

花き栽培では1月にチューリップを咲かせるなど、開花時期を調節する技術があります。多岐にわたる仕事をしているため、社員には資格取得を勧めています。合格した資格に応じた昇給制度を用意しています。ドローンを使う仕事もあり、免許取得も必要。得意分野を生かしたい人、一芸に秀でた人が実力を発揮できる職場です。



代表取締役
金岡 秀和さん



淡路市

北淡路肉牛株式会社



Staff Interview

沼田 剛志さん(写真左)

北海道の酪農学園大学を卒業後、美方郡で研修を積み、2019年に入社しました。繁殖牛を150頭から200頭に、総頭数を600頭に増やすのが近い将来の目標。若者が興味を持つ畜産をしたい。

神野 高至さん(写真右)

実家は繁殖農家ですが、本格的に畜産に関わって20年になります。牛が好きだと楽しい仕事ですよ。種付け・出産などの技術を高めていきたいと思っています。

繁殖から肥育までの肉用牛の一貫経営 おいしい牛肉を作りたい

北淡路肉牛株式会社は淡路島の北部、明石海峡を遠望できる丘陵にあります。代表取締役の沼田康宏さんは、畜産農家の二代目。父親が南あわじ市で酪農を営んでいましたが、高度成長期に肉用牛肥育も開始し、1980年に農事組合法人として法人化。1986年頃は乳オス、F1（交雑種）を含めて1200頭を飼っていましたが、これらの子牛の減少などのため、和牛へと移行。2011年には和牛一本に絞り、繁殖から肥育までの一貫経営を行っています。分娩間隔を短くしたり子牛の事故を減らすなど、生産性を高めることを追求し、消費者に納得してもらえるおいしい牛肉作りを目指しています。

事業内容

肉用牛の一貫生産



おもな産品

繁殖牛150頭を含む480頭の和牛を、周年放牧をしながら8棟の牛舎で飼育。15haの草地での飼料作物の生産、完熟堆肥の製造販売をしています。

わたしたちの思い

但馬牛は兵庫県但馬地方の人たちが育み築き上げてきた、兵庫の宝です。現在では過半を淡路島で生産しており、価値ある但馬牛を後世へ引き継ぐのが役目と考えています。

こだわりPOINT

但馬牛の評価がさらに高まっている中で、研究者が改良したことを現場にフィードバックして飼育方法を工夫し、おいしい牛肉を作るために技術を高めたいと日々努力しています。



DATA

所在地	〒656-2301 淡路市楠本1144-1
TEL&FAX	0799-74-4951
設立	1980年
従業員数	社員6人

Top Message

人にも牛にもやさしい環境づくり
環境保全に力を入れ、地域貢献も

牛の居心地が良い牛舎で従業員が働きやすい職場を整えること、人にも牛にもやさしい環境づくりが課題です。近くで耕作放棄地が増えているので放牧地に利用するなど、農地保全にも力を入れて、地域に役立ちたいですね。



代表取締役
沼田 康宏さん



Staff Interview

山中 ひばりさん

2018年4月に大阪の普通高校を出て、農業に興味があったので入社しました。西宮出身です。現在は育苗・栽培管理などの農作業、ベトナム人4人の教育係、商談会に同行して営業見習いと、いろいろな仕事をしています。どれが自分に向いているか、模索しているところですね。一番楽しいと感じるのは、外で土に触れているとき。トラクターに乗って、機械の作業もしています。

DATA

所在地 〒656-2305
淡路市浦627-1

TEL&FAX 0799-70-4347

H P <https://kfarm-awajionion.website>

設立 2013年6月

従業員数 社員3人、パート4人、特定技能4人(ベトナム人)



事業内容

たまねぎの生産・販売、直売所運営

おもな作物

たまねぎ、キャベツ



こだわりPOINT

化学肥料、農薬を抑えた栽培方法でたまねぎを生産。冷蔵庫で保管し、通年提供しています。



直売所「さいさいPantry」

淡路島のブランドの たまねぎを全国へ展開 生産するのも販売するのも楽しい

淡路島の名産であるたまねぎを全国に広めたいと、代表取締役・片原啓之さんが2013年に設立した「K.ファーム」。5ヘクタールの畑で化学肥料、農薬を控えてたまねぎを栽培。首都圏や京阪神で開催される商談会などに積極的に出かけ、販路を開拓。自社生産と提携農家のたまねぎを、全国のスーパーに卸し、生産から販売までを一貫して手掛けています。神戸淡路鳴門自動車道東浦IC近くに直売所「さいさいPantry」を運営し、たまねぎのほか季節の野菜やドレッシング、お土産も販売しています。

Top Message

農業から営業まで多岐にわたる 仕事があります

自社生産50%、提携農家50%の割合でたまねぎを全国のスーパーやレストランに出荷しています。農業者として作るのも楽しいし、営業人として売るのも楽しい。仕事は多岐にわたるので、自分で何をすべきかを考えて実践できる人材を希望しています。自分に向いた仕事を探し、それができると楽しいですよ。



代表取締役
片原 啓之さん



淡路市

株式会社フレッシュグループ



事業内容

若手農業者のプラットフォームの運営、
農産物の生産・販売、農村資源の再発
見と利活用

おもな作物

スティックニンジンなど
の野菜、バジルなどのハ
ーブ、エディブルフラワー



こだわりPOINT

常時15種類以上の野菜やハーブを、小さなほ場
ごとに細かく管理する栽培方法で生産しています。



海の見える展望の良い場所にあるほ場

Staff Interview

佐藤 直也さん(写真左)

大分県出身。2013年4月に新規独立就農。取締役
として会社に参画しています。リーフレタスマックス
を中心に、さまざまな野菜やハーブの栽培に携わっ
ています。若手専業農業家グループの一員として、
仲間と助け合い組織の共同運営に積極的に取り組
んでいます。

山本 寛さん(写真右)

大学農学部4年生でインターンとしてお世話にな
り、2018年4月に入社しました。スティックニンジン
などの野菜を担当するほか、栽培に関する全体の管
理を任されています。病虫害など自然の変化を見逃
さないように心がけています。「淡路島いちじく
ファーム」の農場長として農場マネジメントにもチャ
レンジ。生産だけでなく管理や経営など、農業者とし
て必要なスキルを蓄えることができる職場です。

若手農業者の思いを結集

30~40種類の希少野菜・ハーブを全国へ

若手農家の野菜づくりへの思いが詰まった「フレッシュグループ」。「個々では
できないことをグループで助け合い、切磋琢磨する」と代表取締役の森靖一さん。
淡路島北部の中山間地の畑(ハウス20棟、計6ヘクタール)で、常時15種類、
年間30~40種類の希少野菜やハーブを生産。生い立ちの分かる野菜とハーブ
を全国のホテルやレストランに提供しています。小さなほ場を細かくデータ管理
する新しい栽培技術に挑戦。各野菜に担当者を置き、栽培管理、収穫、出荷をき
ちんと担当制にすることで、仕事の見える化を進めています。

Top Message

ベンチャー企業ならではの挑戦が おもしろい

農地・農村の保全活動を通して、農業を持続してい
くことにも力を入れています。高齢になりつつある
農業者と組んで、技術や販売のノウハウを継承す
る共同出資型の事業承継果樹園を2020年に立ち
上げました。地域貢献として、プログラミング教育
も行っています。新しい事業をいろいろ考えるベン
チャー企業なので、おもしろいことができますよ。



代表取締役
森 靖一さん

DATA

所在地 〒656-1501
淡路市尾崎1116-1
TEL 0799-70-4232
FAX 050-3131-9586
HP <https://www.freshherb.jp/>
設立 2015年4月
従業員数 社員5人、パート7人



兵庫県各地域 就農支援センター マップ



1 神戸地域就農支援センター (神戸農業改良普及センター内)

神戸市西区神出町小束野30-19
TEL.078-965-2102
所管区域:神戸市

2 阪神地域就農支援センター (阪神農業改良普及センター内)

三田市天神1-10-14
TEL.079-562-8861
所管区域:尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、
宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

3 加古川地域就農支援センター (加古川農業改良普及センター内)

加古川市加古川町寺家町天神木97-1
TEL.079-421-9165
所管区域:明石市、加古川市、高砂市、稲美町、
播磨町

4 北播磨地域就農支援センター (加西農業改良普及センター内)

加西市別府町西大谷甲2662
TEL.0790-47-1448
所管区域:西脇市、三木市、小野市、加西市、
加東市、多可町

5 姫路地域就農支援センター (姫路農業改良普及センター内)

姫路市北条1-98
TEL.079-281-9335
所管区域:姫路市、市川町、福崎町、神河町

6 光都地域就農支援センター (光都農業改良普及センター内)

赤穂郡上郡町光都2-25
TEL.0791-58-2211
所管区域:相生市、赤穂市、上郡町、佐用町

7 揖保地域就農支援センター (龍野農業改良普及センター内)

たつの市龍野町富永1311-3
TEL.0791-63-5173
所管区域:たつの市、宍粟市、太子町

8 豊岡地域就農支援センター (豊岡農業改良普及センター内)

豊岡市幸町7-11
TEL.0796-26-3707
所管区域:豊岡市

9 美方地域就農支援センター (新温泉農業改良普及センター内)

美方郡新温泉町芦屋522-4
TEL.0796-82-1161
所管区域:香美町、新温泉町

10 南但地域就農支援センター (朝来農業改良普及センター内)

朝来市和田山町東谷213-96
TEL.079-672-6888
所管区域:朝来市、養父市

11 丹波地域就農支援センター (丹波農業改良普及センター内)

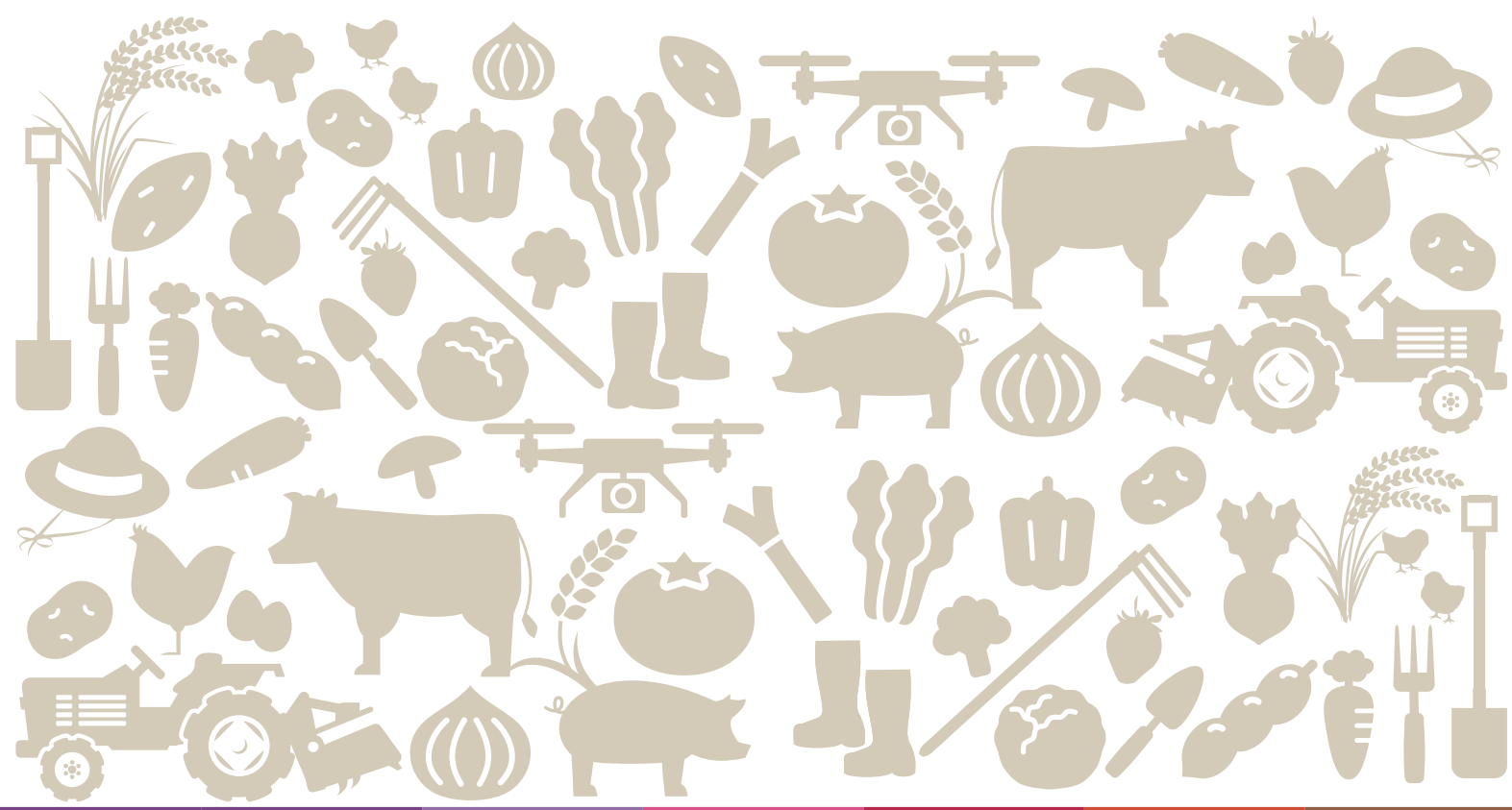
丹波市柏原町柏原688
TEL.0795-73-3805
所管区域:丹波篠山市、丹波市

12 南淡路地域就農支援センター (南淡路農業改良普及センター内)

南あわじ市八木養宜中560-1
TEL.0799-42-0649
所管区域:洲本市、南あわじ市

13 北淡路地域就農支援センター (北淡路農業改良普及センター内)

淡路市志筑1421-1
TEL.0799-62-0671
所管区域:淡路市



問い合わせ先

(公社)ひょうご農林機構・ひょうご就農支援センター

〒650-0011
 神戸市中央区下山手通4-15-3 兵庫県農業共済会館3階
 TEL:078-391-1222 FAX:078-391-8755

<https://www.hyogo-shunou.jp/>



相談日

月曜～金曜
 (祝祭日、年末年始(12/29～1/3)を除く)
 ※上記HPから事前申し込んでください

交通

JR元町駅・阪神元町駅から徒歩5分、
 神戸市営地下鉄県庁前駅から徒歩2分

